

■寺門静軒 儒学者。「江戸纂昌記」で流行作家となるも、風紀を乱すと出版差し止め、放浪後、復活し「新潟纂昌記」。

てらかどせいけん

フーﾄ来航・1796＝ 江戸で、水戸藩の大吟味方勤弥八郎勝春の子に生まれる。

青洲麻醉手術1805＝ 9歳：

いづろ報復・1806＝10歳：母が死去、

間宮海峡発見1808＝12歳：続いて、父も死去し、以後、祖父母に養育される。

黒住教・・・1814＝18歳： 初め田口某について学び、

のち_山本緑陰の塾に寄宿して詩作を学び、寛永寺に入って史書を読む。

水野忠成老中1818＝22歳：

_この間、家を継いだ義兄が出奔して、藩士寺門家が廃絶されてしまい、

その後旅に出たようであるが、

ｼｰﾎﾞ来日・1823＝27歳：

異国船打払令1825＝29歳：_この頃、江戸駒込の吉祥寺門前に、家を借りて塾を開き、

・・・1826＝30歳：_谷中に転居して{克己塾}と名づけ、市井の儒者の生活をしながら、寺門家の再興を期す。

ｼｰﾎﾞ事件・1828＝32歳：

_この間、根岸友山との親交が始まる。

富籤流行・・・1830＝34歳：_藩主が徳川斉昭に代わったのを機に、仕官運動するも叶わず、文筆に専念し、

鼠小僧磔・・・1832＝36歳：

*「江戸纂盛記」を出し始めると、忽ち江戸文壇の評判となって流行作家となったが、初め出版を一度は断わり、その後発行を諾した本屋が、五十両を持って礼に来た際、十返舎一九が「膝栗毛」を出して大当たりした時の半分かと文句を言ったが、生まれつき清白寡欲な人で、得た金は尽く伯兄に献じて、その衣食の資とさせたい。

・・・1836＝40歳：*風紀を乱すとして出版差し止めとなり、

大塩平八郎乱1837＝41歳：根岸家で「易经」を講義。

適塾わづン・1838＝42歳：「静軒詩文鈔」刊行、

天保改革始・1841＝45歳：_養負騒動の責で根岸友山が江戸追放。天保の改革に当たって、「纂盛記」が咎められて絶板となり、

天保改革弾圧1842＝46歳：_武家奉行御構の処分を受けて仕官の道が完全に断たれると、

_以後、髪を切り形を変え、自ら無用の人と称し、

阿部正弘首座1845＝49歳：

越後新潟を皮切りに、

8年間に7度も家移すなど、_放浪の生活を送った後、

国定忠治磔・1850＝54歳：_江戸に戻り、「江頭百首」刊行、

年長の多くの友人と親交し、その一人が死去すると、遺された父親を最後まで見とるほどであった。

ペリー来航・1853＝57歳：

開国開港・・・1854＝58歳：_娘が根岸友山の弟と結婚。

安政大地震・1855＝59歳：安政の大地震に遭遇し、娘の嫁ぎ先の家を頼るも拒否され、

松下村塾・・・1856＝60歳：再び遊歴の旅に出、この年、上方へ、

蕃書調所・・・1857＝61歳：武州へ、

五ヶ国条約・1858＝62歳：新潟方面に出かけ、

安政の大獄・1859＝63歳：帰ると*「新潟纂昌記(新潟富史)」を刊行し再び、評判となる。この年、根岸友山が赦免される。

桜田門外変・1860＝64歳：_終の棲家を探して訪れた妻沼で懇請され、そこに{両宜塾}を開いて定着。

薩長同盟・・・1866＝70歳：_熊谷宿へ出講することが多くなり、

大政奉還・・・1867＝71歳：_熊谷宿の寺に居を移した後、娘夫婦とともに根岸家に迎えられ、

明治維新・・・1868＝72歳：_没した。

「静軒一家言」「太平志」「痴談」。

「人づくり風土記(埼玉)」、平凡社百科事典、「江戸・東京を造った人々」、